

みょうこうケアフォーラム通信

令和6年度 第2回 みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時:令和7年2月27日(木)18時30分から20時00分
- 会 場:新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者: 60名(介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)
- 内 容:誰一人取り残さないために～多職種連携だからできること～
 - 「身寄りのない人や親類縁者からの支援がない人への支援”チームアプローチの大切さ”」
 - 情報提供(権利擁護支援ネットワーク委員会での検討結果)
 - ◎妙高市権利擁護支援ネットワーク委員会 会長 尾島 弘恵 氏
 - 取組・事例紹介
 - 身寄りのないかたを含めた高齢者の支援をとおして
 - ◎妙高市地域包括支援センター 係長 原田 浩成
 - グループワーク
 - ・取組報告と事例紹介をきいて
 - ・事例をとおしてできることを考える(在宅グループ・施設グループ)



司会は実行委員
の原さん

1 権利擁護ネットワーク委員会での検討結果

第1回みょうこうケアフォーラムから

「身寄りのない
高齢者等の支援」
についてあがった
課題を
「4つ」に整理

①入院、入所等に伴う(連帯)保証

②(医療に関する)意思決定

③金銭(財産)管理

④死の前後に関する対応



専門職の視点から課題解決の方法、担い手、使える制度や社会資源、実践するために必要な取り組みについて検討した『課題整理票』を参考として提示

2 取組・事例紹介

事例

「親族の支援を得られない高齢者夫婦への支援」

- ・男性 79歳 要介護1
- ・妻と二人暮らしで子どもがいない
- ・親戚と疎遠
- ・妻は軽度の知的障がいの疑い



妙高市地域包括
支援センター 原田

親類の支援が得られなくても、本人や家族が安心して生活できるように、役割分担をしながら、支援者がいつもの役割より一歩前の支援を行った事例を紹介！

<身寄りのない高齢者に関わってきて学んだこと>

- うまくいったケースというのは、うまくいくまで関わり続けることができたもの。包括だけで全てできるものではなく、多くの関係者が力をあわせた結果、関わり続けることができています。
- 支援の狭間は、一人に押し付けるのではなく、皆で考えることで案がでてくる。できることの一步先を行っていくことが必要。
- いろいろな社会資源の活用が必要である。医療、福祉分野以外のかたがたとの連携にあたっては、お互いの理解が大切。(職種の理解→相互理解→協働→多職種連携)

感想

- 自分の担当と重ねて聞いていた。頑張ろうと思った。
- 役割の隙間を分担しながら一人に責任がかかることなく支援できていることが勉強になった。
- 後見人も含めたMCネットの活用で情報の見える化ができる。

3 事例をととしたグループワーク

課題① デイサービスやショートステイを利用するにも何を準備していいかわからず準備ができない

- ・必要なものを書き出して目のつくところに貼る
- ・甥にはじめだけ手伝ってもらう。甥がダメなら甥の家族にもあたる。
- ・ヘルパーの活用を検討する
- ・CSセットのあるショートの利用やデイサービスには最低限のもの(入れ歯・薬)を持っていけばいいことにする。事業所で荷物一式を預かる。洗濯も事業所で実施。薬も薬剤師に準備を依頼する
- ・デイサービスやショートの日のお迎えの時に多少の準備はできる
- ・そもそもデイサービスやショートが必要なのか思い込みを捨てて検討する

課題② 車を運転できず、バスの時刻表を覚えることができないため病院の受診ができず、3か月前から病院に行けていない

- ・受診の月日、時間、バス時間をメモに書いて渡す
- ・ケアマネ、近所の人や民生委員が乗り合いタクシーを予約して事前に電話する
- ・訪問診療に変更していく。それによって薬剤師も介入できるようにする
- ・ケアマネがバス停まで一緒に行く(練習)。帰りが心配なので病院に連絡しておく。また帰ってくる時間を近所に伝えておく

課題③ 残薬が残っており飲み忘れがある。また、病院受診後に薬局によらず帰ってきている様子で前回受診後の処方箋が残っていた

- ・薬の処方の単純化(例:朝1回にする。一包化にする。日付を記入する等)。お薬カレンダーの活用
- ・朝1回できたら、デイサービスお迎え時に内服支援
- ・服薬ロボの活用※お金はかかるが、アラームで教えてくれる
- ・受診時に「この薬局に行きたい」と言う意思表示をきき、その薬局に誘導してもらう
- ・処方箋を病院から薬局へ直接渡してもらうと確実に渡せるのではないか
- ・そもそも3か月前は行けていたことがなぜできなくなったのか原因を探る

課題④ 道から15m奥まったところに家があるため、冬は除雪が必要だが、自分では除雪機を動かすことができない。近所のかたが掘ってくれていたが、お金の支払いが滞ったためやめてしまった

- ・後見人や日常生活自立支援事業の申請
- ・近所の人との協力を得て雪踏みボランティアの活用
- ・除雪のために少しでもお金を残してもらう(そのためのお金を分けておく)

課題⑤ 民生委員から何かあったときの連絡先を聞かれているが、「誰も頼れる人がいない」と答えている

- ・何を頼まれるかわからないと拒否に繋がる。甥に対して何を頼むのか具体的にお話して確認する
- ・出来事レベルでどこに連絡するかを決める(準備)
- ・その人を知るためにどんな生活をしてきたか話を聞いてまず信頼関係を作る。そこから本人の想い「誰もいない」という信条に至った経緯や本音が聞きだせるようにする。それを関係するチームで共有していく

施設の身寄りなし入所は難しい・・・が、その人の想いを引き継ぐためにも入所前にケアマネ等支援者との連携が大切！

4 まとめ



まとめは実行委員会の揚石先生

一人で解決することは難しいので、とにかく、一人で悩むのではなく、仲間を見つけてチームで考えることで解決策が見えてくる。

来年もみょうこうケアフォーラムは、年2回を予定しています。ぜひ、ご参加ください。